

科目名		テーマ		
金融		金融は、経済の血液循環と言われます。政府、中央銀行、金融機関、事業会社、家計の間を巡る循環とその機能不全について学習します。個人が住宅ローンや事業資金を借りる際の予備知識も提供します。		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修 / 指定科目
大槻 雅彦	2	2	経済情報学科	選択 / 教職課程科目 (商業)

[授業の内容・到達目標]

講義の内容について、初めの段階で、金融の土台である貨幣という財のもつ特性を学び、金融取引とはお金が売買取引の決済手段として流通することではなく、将来の返還を約束した資金の往復を内容とした取引であることを学びます。20世紀には、貨幣自体が金/銀本位制から、管理通貨制の下での中央銀行券を経て、決済システム上の電磁的記録へと変貌しました。このような経緯を経て、通貨の電子化の完成が、自分の成長と同時代的に進行したことを理解するのが、受講生の最初の到達目標となります。

また、日本の金融システムもこれらと並行して、解体と再編の過程に入っていきます。都市銀行、特殊銀行、一県一行の地方銀行、相互銀行という金融秩序が第二次世界大戦の直前に国家総動員体制の一環として形成されましたが、戦後にもその体制が基本的に温存され、復興と高度成長のための金融を担いました。しかし、1990年代のいわゆる日本版ビッグバンを経て、今では3メガバンクに集約され、長期信用銀行(旧特殊銀行)は業態ごと消滅しました。それと同時進行する形で、国際的にはバーゼル銀行監督委員会の下でいわゆるバーゼル III が2019年の完成に向けて始動しています。世界的な金融のリスクの連鎖により、もはや他国の金融危機を対岸の火事として傍観することはできません。受講生は、これら金融システムの変容の歴史的意義をなるべく深いレベルで理解することを目標とします。

一方で、受講生が将来に、金融の消費者として関わるであろう住宅ローン(金銭消費貸借契約)、その信用補完となる生命保険・火災保険への質権設定の意味、金融商品の比較の物さしである利回り計算の方法についても講義内容とします。自分の将来のために予備知識として十分に身につけてください。さらに、反面教師的な話ですが、消費者ローンに関する利息制限法・貸金業法でのグレーゾーン金利の過払い返還など、金融を利用する場合の留意事項などについても解説しますので、実生活にも役立てられるように覚えておいてください。

[授業方法]

講義形式ですが、質問があれば遠慮せずに、挙手して指名を受けたのち、まず自分の名前を言って、質問してください。その場でうまく答えられない時には、講師側の宿題にして、次の講義の際に回答します。逐次、必要に応じて次回の内容について指示します。

[成績評価の方法]

基本的に期末試験 70点 (金融システムについての理解 70%、金融の消費者知識 30%)
 12回目の講義でレポートの課題を出し、14回目の講義で回収します。良いものには加点します。
 授業への参加態度 30点

[テキスト]

[参考文献]

「現代の金融入門 [新版]」(ちくま新書 831) 池尾和人 「ベーシック金融入門」(日経文庫 1821) 日本経済新聞社 編	「金融論をつかむ」(テキストブック「つかむ」) 前多康男、酒井良清、鹿野嘉昭 著、有斐閣
--------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------

[履修上の注意・その他]

私語は、講義への妨害または侮辱、そして真剣に学ぼうとする他の学生への迷惑行為と考えますので、退席を命じることがあります。
 携帯電話は教室内ではマナーモードにしてください。通話、メール操作等は、私語と同じとみなします。
 少なくとも朝晩2回、普通で朝昼晩の3回ぐらいは、政治・経済のニュースをみてください。
 [授業計画]の内容および順序については、状況により追加・削除および変更することがあります。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	イントロダクション、自己紹介、「金融」という言葉の語源、15回の講義の構成。(1)日本、世界の金融についての枠組みを理解し、(2)仕事の起業や住宅の購入などで資金が必要なときの予備知識を学び、(3)金融にともなうリスクとその対処方法について理解を深める。テキスト、参考文献について。
2	「金」とは、貨幣論、日本のお金の歴史(両・分・朱→円・銭・厘)、武士の給料は米、金禄公債証書、金・銀本位制、金解禁、新円交換、管理通貨制度、戦後ブレトン・ウッズ体制、ニクソン・ショック、スミソニアン体制、変動相場制。資金決済機関、電子化、
3	「融」とは、お金の消費貸借(民法、第三編債権 第二章契約 第五節 消費貸借 (§587—§592))、金銭消費貸借契約書、様々な追加的条項、
4	「投資」とは、株、株式会社の歴史(1602年オランダ東インド会社)。日本の株式市場の歴史。企業のバランスシート、株主と債権者の権利関係、優先劣後、有限責任のオプション価値。
5	金融商品とは、預金(預金保険機構)、債券、株式、負債性資本調達手段、デリバティブ、
6	利回りとは、単利、複利、連続複利、金利の期間構造、
7	金融機関とは、銀行、証券会社、保険会社、系統金融機関。中央銀行、国際決済銀行、世界銀行、国際開発銀行、
8	金融市場とは、株式市場、国債市場、社債市場、短期金融市場、デリバティブ市場。
9	決済リスク、決済システムとは、全銀ネット、日銀ネット、保振、CCP、ユーロクリア、クリアストリーム、
10	日本の資金循環、日銀「資金循環勘定」の見方、日本の資金循環構造の変遷。
11	日本の金融市場史、家禄石高→公債、東株、日銀、戦勝と賠償金、戦時経済、国債再発行。福島県の金融史、復興金融、
12	リスクとは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、恐慌、取付騒動、インフレーション、 ◎レポートの課題提示
13	金融行政・中央銀行の役割、金融庁、証券取引等監視委員会、日銀。 インサイダー取引の監視と制裁
14	国際決済銀行(BIS)の歴史と役割、BIS規制、バーゼルII、バーゼルIII。 ◎レポートの提出期限
15	まとめおよび補遺、試験案内